

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102352		
法人名	有限会社高木ライフ企画		
事業所名	グループホームさんあい		
所在地	宮崎県宮崎市老松1丁目6番19号 (電話) 0985-83-2628		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】（平成20年5月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年4月21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人, 非常勤0人, 常勤換算6人	

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1～2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	37,500～45,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成20年5月20日現在）

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	1
要介護3	7	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	高木内科・胃腸科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地の中の住宅地にある。3世帯住宅の一軒屋で、庭には花木が植栽されており、吹き抜ける風も爽やかで地域の中に自然にとけ込んでいる。利用者がそれぞれの居室を自分の家として認識し、その中で職員の暖かで自然なケアを受けながら穏かな生活を送っている。管理者と職員が目指す“自然体で、家庭の延長としてお互いに楽しくゆっくりと・・・”に向けて取り組んでいる姿勢がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 地域との支え合いは回覧板を利用する等の取り組みが実施されている。家族への報告等はホーム側から家族へ向けての発信（ホームだより）の取り組みが未だ行われていない。人材の育成は職員体制を理由に取り組みが行われていない。利用者の暮らしの支援については、生活歴の把握に努めるなど取り組みが実施されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 職員は評価の意義や目的をよく理解している。ミーティングや全体会議で取り上げ、常時検討が行われている。できることから徐々に改善が進められている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 年1回のペースで運営推進会議が開催されているが、内容はホーム側からの報告、情報交換に留まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の来訪時には、できるだけ管理者が声かけして、気軽に話せる機会を設ける努力がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に入会している。“ホームだより”を回覧板で配布するなどの取り組みが始まり徐々にではあるが“隣人さん”として地域との交流への取り組みが行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意識に沿った理念を掲げている。それを玄関に掲示し職員に意識づけるとともに地域へも発信している。		(
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや全体会議の際に“皆が楽しく笑顔に暮らせる・・・”理念に沿ったケアの取り組みについて話題にあげている。また、日々のケアで全職員がそれに向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、ホームだよりを回覧板で配布する等の取り組みが始まっている。訪問時も隣人がお知らせを届けにくる風景があり地域との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的をよく理解している。評価の結果を踏まえ、全職員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		

宮崎県宮崎市 グループホームさんあい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年1回のペースで開催されているが、内容はホーム側からの報告、情報交換に留まっている。	○	会議のメンバーに地域包括支援センター職員や地域密着型サービスの知見者等を加え、自己評価や外部評価等を公表し、ホームの質の向上、確保を図る取り組みを望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部長（現場責任者）が市担当者と連携を図っており、連絡・報告・相談をきめ細かく行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書の送付の折に、簡単なお便りを同封する等の取り組みは行われているが、定期的なホーム便りの発信への取り組みは行われていない。	○	定期的に利用者の暮らしぶりやエピソード等“ホーム便り”で家族へ発信する取り組みを望みたい。また、金銭出納帳簿はある程度定期的に家族に確認・明示し、確認印（サイン）をもらう等の仕組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にはできるだけ管理者が声かけして気軽に話せる機会を設ける努力がされているが、意見や不満を表出させる仕組みの体制づくりが行われていない。	○	家族の来訪時には全職員が意見や不満を引き出せる雰囲気をつくり、家族が表出したものを職員が受け止める感性を磨く取り組みに期待したい。また、ご意見箱等の設置や家族会の組織作りへの取り組みも望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に大きな職員の異動はない。新しい職員が入った時は夜勤を当分の間2人体制にするなど対応し、利用者のダメージを防いでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低限の研修は受講しているが、人員配置にゆとりがないことを理由に、資質向上を図るための研修に参加できていない。	○	運営者は職員の質の向上、確保のために十分な話し合いのもと、年間計画の中で研修を位置づけ、職員体制を整えるなど法人内外の研修を受ける機会を確保する取り組みを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やブロック研修会に積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に家庭や病院を訪問しなじみの関係を作ったり、希望があれば体験入居を受け入れる等、利用者が徐々になじめるよう工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴の把握への取り組みが行われ始め、利用者を人生の先輩という考えを職員が共有しており、共に支えあえる関係作りが行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添うケアの中で一人ひとりの意向を把握しており、和やかな生活をしている。職員が利用者の話にしっかりと耳を傾けている様子が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認して職員間で話し合いを持ち、それを反映した介護計画を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行い、また、利用者の状態に応じて随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の支援を行っている。	○	地域のニーズを把握し、介護教室や介護相談会等への取り組みを検討されることを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する掛かりつけ医となっている。また、母体法人が医療機関であり適切な医療を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでは終末期を受け入れる体制はないが、本人や家族と話し合いを持ち、重篤化した際の対応方針については共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たない、さりげない言葉かけやケアが出来ている。個人情報の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	多くの居室にテレビが置かれ、一人ひとりが居室で気ままな時間を過ごしている風景があった。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も配膳、食器洗い、台ふきを行っている。職員も同じ食卓を囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回に決められている。時間帯が午前・午後に設定され午後の時間帯が2時半までになっている。	○	入浴回数や時間帯は、なるべく本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせる事が望ましい。職員のローテーション等工夫し、時間帯（4時頃まで）の改善に取り組まれることを望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	踊りの得意な利用者から踊りを習ったり、発表の場をつくっている。洗濯物たたみ、おにぎりづくり、洋裁等の役割、気晴らし出来る取り組みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年に数回は花見等が実施されているが、日常的には買出しに同行することがたまにあるくらいである。職員体制が困難であるとの理由で、日常的に外出できる体制にない。	○	外出はその人らしく暮らし続けるために必要であり、地域の人々の理解と協力を得るためにも重要である。パートでの補充やボランティアを導入して日常的に外出できる取り組みを望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。勝手に外出しそうなときは、声かけしてさりげなく付き添う等の対応をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の際には地域へ呼びかけ、協力を得ている。利用者や職員が避難できる方法を身につける訓練が不十分である。	○	マニュアルを作成し、いざという時にあわてず避難誘導が出来るよう、職員が様々な場合を想定した訓練を定期的の実施する取り組みを望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記録し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光がよく、季節の花が飾られ心地よい空間になっている。ただ、共用空間が狭く、車いす利用者は一緒に食卓を囲めない状況が見受けられる。また、狭いことに起因してか食事時間以外は、ほとんどの利用者が居室で過ごしている。	○	他の空間を活用した、利用者が寛げる共有スペースの確保の取り組みを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がそれぞれなじみの物を持ち込み、一人ひとりが居心地の良い環境を整えている。		

※  は、重点項目。